

『星』のように輝いて

校長 安藤 徹



3月を迎え、いよいよ今年度最後の1か月となりました。みなさんはどのような気持ちでこの3月を迎えていますか？3月、4月は、卒業や就職、異動や引っ越しなど、慣れ親しんだ人との別れや、新しい人との出会いが多い季節ですね。人との別れにさびしきやせつなさを感じたり、一つの節目を迎えることができホッとしたり、新しく始まる生活に胸が高まったりなど、様々な感情を抱かせてくれるのがこの時期です。

来週8日には50名の3年生が岩戸支援学校を巣立つこととなりますが、私の今の心境としてもとても複雑で、3年生のみなさんの卒業をうれしく思う反面、本当にさびしい気持ちでいっぱい



いです。

ところで、1か月ほど前になりますが、県内にお住まいの千葉昭夫様から神奈川県に寄贈された有名なダウン症の書道家「金澤 翔子(かなざわ しょうこ)」さんの書の作品が教育委員会を通じて県立特別支援学校29校すべての学校に1点ずつ寄贈されました。

それぞれの学校がいただいた書作品の文字にはいくつか種類がありますが、岩戸支援学校には『星』という文字が贈られました。

金澤翔子さんが力強く書いたこの「星」という言葉や形は、昔から何か特別なもの、輝いているものを示すシンボルとして使われてきました。例えば、空を見上げると夜空に輝く星々。これらの星は、遠く離れた場所からでも明るく輝いて見えることから、特別であり、目立つものとして認識されてきました。このように、星は「輝き」や「特別さ」を象徴するものとして、多くの文化や歴史の中で使われてきました。そのため、人々が目にするものの中で最も輝いているもの、すなわち芸能やスポーツなど、様々な分野での一流トップスターをさす言葉として星を英語で表した「スター」という言葉が使われるようになったのは自然な流れと言えるのかもしれません。

さて、これから社会にはばたく直前の3年生のみなさん、この3年間の岩戸支援学校の学校生活の中で一人ひとりの生徒の皆さんも「星」のようにきらきら輝いている姿をたくさんの方で見せてくれました。ぜひ、岩戸支援学校を卒業してからもいつまでも輝き続けてほしいと思っています。中には岩戸支援学校での3年間では輝ききれなかった人がいるかもしれませんが、しかし、これからみなさんにはたくさんのお会いやすばらしい経験をすることができるチャンスが待っています。そのチャンスをのがすことなく、その出会いや経験からまた新しい可能性を引き出してほしいと思います。



最近、私はこんな言葉に出会いました。『人生は、「はっは(8×8)」と笑って64%、「しくしく(4×9)」泣いて36%。だから人生のうち6割は笑って生きるんです。たとえ「号泣(5×9)」しても45%、半分以下。一回きりのかぎられた人生、いっぱい笑って、いっぱい泣いて楽しく生きましょう!』

3年生のみなさん、卒業おめでとうございませう。いつまでもお元気で。

令和6年3月1日

～1年間岩戸支援学校ホーム・ページ、管理職だよりをご覧くださいありがとうございました～